

## 「ようこそ先輩」考古学からみた丹波の歴史

3月6日(月)4限、高校25回卒業生の村上泰樹氏に「考古学からみた丹波の歴史」という演題で、講演会を行っていただきました。柏陵同窓会主催の「柏陵セミナー」がコロナの影響で3年連続中止となったため、その講師として予定されていた村上様の講演を、今回「ようこそ先輩」でお呼びすることになりました。同窓会の皆様にもご案内したところ、同窓生10名の参観と2名のオンライン参加がありました。

村上様からは以前に兵庫県まちづくりセンター埋蔵文化財調査部に勤務された経験から、2つのお話がありました。1つ目は丹波市の舞鶴若狭道春日インター付近の埋蔵文化財を3年間にわたって発掘調査された際の、旧石器時代の地層についてでした。そこでは2万5千年前の地層があり、我々の祖先が狩猟対象にゾウやシカをしていたとの事でした。丹波市にも大型のナウマンゾウもいたかもしれないとの事でした。2つ目は丹波市内の古代の地名についてでした。遺跡から出土した文字史料(木簡)によって古代氷上郡の役所が二つあったという、全国的にも珍しい事例が氷上町市辺遺跡などの調査によって明らかになったそうです。最後に、事業を進めていく上で議論が大切なことや、テーマを決めて探究活動を議論しながら進めていくことの大切さをお話しされました。

